

5. 結果と考察

- (1) 領域別指導計画, 年間指導計画, 月間時間配当表, 月別指導計画等の作成により, 指導目標と教材の内容がはっきりした。さらに一時間ごとの授業の流れ, 前後の授業, およびその関連が, 誰にでもひとめでわかるようになった。
- (2) 事前, 事後に, ミーティングすることで, 一時間ごとの複数教師の役割, 分担が明確になった。しかも, 「T₁ が主で, T₂ が副」ということがなくなり, どちらも「主」という考えのもとに授業がおこなわれ, 児童の指導が効率的におこなわれるようになった。
- (3) 上記の(1), (2)の研究にもとづく合併授業は, 単学級における指導上の困難点を打開し, 授業のむだがなくなり, 学習の効率化が進められた。
- (4) 近接学年合併授業では, 指導の場に応じて, さまざまな集団構成をし, 個別化をはかってきた。そのため, 児童の意識は, 学年の枠を越え, より高い目標に目を向けるようになった。一方, 複数教師が指導することにより, 児童ひとりひとりの能力を把握し, 適切に指導することができた。(2 個学年合併しても, 最高29人である。)
- (5) 本年度の研究の中では, 近接学年合併授業における評価の問題が解明できなかったが, これは今後の大きな課題になるであろう。

6. 今後の課題

これまでの研究の中で, いろいろな問題が出されている。以下, いくつかの課題をあげてみたい。

- (1) 協力教授による指導においては, 指導にあたる教師(複数)がよく目標をとらせ, それぞれの役割, 分担を明確にし, 授業が的確に進められるようにしなければならない。そのためには, 授業前のミーティングが欠かせない。また, 指導計画の改善, 充実という点から, 授業後のミーティングもたいせつである。したがって, ミーティングの時間確保が, 重要である。
- (2) ミーティングを充実させるために, その持ち方, 記録のとり方などについて, さらに検討を加える必要がある。
- (3) 本校は, 体位, 体力ともに県平均を下まわっている。体力の向上をはかるため, 体育科における「体操」の位置づけをさらに明確にし, 実践していきたい。
- (4) 現有施設設備のじゅうぶんな活用をはかるとともに, 教師の創意工夫による自作教具作りを進めたい。
- (5) 学習カード, 自己評価カードなどを積極的にとり入れ, 協力教授における評価をさらに検討していきたい。

本年度の研究・研修のあゆみ

当教育センターは, 教育研究の機関であるとともに県内教職員の研修の機関であり, 教育に関する奉仕活動の機関であるという3つの性格と機能をもっている。

ここに, 昭和50年度実施した事業概要とその課題等を掲載し, 将来への一步前進の資料としたい。

◇ 研究・相談部 ◇

1. 教育研究の状況

本年度は, これまでの研究の発展や継続, および統合をはかるなどして, 「学校経営」「学習能力」「学力検査問題」「人物画テスト」の研究をおこなってきた。

(1) 学力向上をめざす学校経営の研究

- ① 校内研修に関する研究の実施
 - ア 校内研修の組織と運営上の諸問題の関係
 - イ 事例的な方法による追跡的な調査
- ② 協力教授に関する研究
 - ア 実験学校による実証的研究の実施

- ・福島市立吉井田小学校 校長 三瓶善治
- ・安達町立下川崎小学校 校長 高荒敏一
- ・指導計画の検討改善, 合併・複数授業の研究
- イ 本県における教授組織の実態調査の実施
- ・実態調査(全小学校)の実施と考察

(2) 教科における学習能力の発達と授業に関する研究

- ① 前提能力調査の実施

基本的な題材についての前提能力の調査とそのとらえ方。(音楽科・家庭科)
- ② 思考過程の実態をあきらかにする研究の実施

学習目標とのずれを修正していく学習プロセス, および課題解決過程。(社会科・家庭科)
- ③ 研究対象教科と研究協力員の委嘱